令和2·3年度 京都景観賞

景観づくり活動部門





















表彰式 ^{令和4年} 3月28日(月)



ごあいさつ



^{京都市長} 門川 大作

景観の本質は、「見えるもの」のみにとどまりません。住民の皆様のいきいきとした暮らし、大切につないできた地域の文化や営み、それらも、京都の魅力的な景観を支えています。そして、そんな「生きた景観」は、まちや地域に愛着を持つ、多くの皆様の豊かな関係性やコミュニティの中で形成されてきたものだと思います。

本市では、伝統と創造が調和した、こうした 景観づくりを市民・地域ぐるみで進めるため、 平成24年度に「京都景観賞」を創設。以来 2度目となる「景観づくり活動部門」を募集し、 37件もの御応募をいただきました。コロナ禍 の下でも地域の方々の手で、このように多彩な 景観づくり活動がなされていることを大変心強 く思います。今回、そのうちの17件について、 ここに表彰させていただくことといたしました。

いずれの御活動も、地域の絆の深化、まちの魅力向上に大切な役割を担ってくださっています。市民・団体の皆様の弛まぬお取組が京都の美しい景観につながっていることを、改めて実感した次第です。コロナ禍の影響を受け、令和2年度の募集から2年越しでの表彰となりましたが、御応募いただいた方々、そして景観の保全と創出に尽力いただいている全ての皆様に、改めて敬意と感謝の意を表します。

本市では、市民・事業者の皆様、京都を愛する全ての皆様と手を携え、景観づくりの輪が今後ますます広がるよう力を尽くしてまいります。一層の御理解、御協力をお願い申し上げます。

景観づくり活動部門に添えて



京都景観賞審査委員会委員長 (京都府立大学教授)

宗田 好史

コロナウイルス感染症拡大が3年目に入りましたが、かつての生活はまだ戻らず、マスクとリモートが日常化しました。パンデミックから命を守る戦いが今も続いています。京都景観賞はコロナ禍の中でも活動を続ける市民・事業者の皆さんを励ましたい思いで、令和2年度早々に「景観づくり活動部門」を始めました。その後、募集開始までに時間がかかり、応募期間を延期し、リモート会議で審査を進めて半年、今ようやく表彰式を開催できました。2年前のご応募を忘れる方がいるほどに時間がかかりました。

コロナ禍で京都の町中から外国人観光客が消え、買物客も減りました。でも、町の姿はあまり変わりません。賑わいはなくてもきれいな町家は増え、旧番組小学校などの歴史的建造物はお洒落なホテルに再生しました。20世紀と違い、21世紀の京都は未来に継承すべき優れた景観を守り続けています。それはもちろん、市民の皆さんの多様な景観づくり活動の成果です。2度目となった今回の景観づくり活動部門の内容は、さらに進化し、景観づくりを通じて地域社会の様々な課題を解決する活動になりました。パンデミックの中でも活動は続きました。皆さんの景観づくり活動が多くの市民を励まし、人々の日々の暮らしの場を守ったことを強く感じます。

世界で605万人が亡くなったパンデミックの中, 国境や県境を越える移動は規制, ステイホームが求められました。しかし, 人々はバルコニーに出て互いに励まし合い, 医療従事者の献身を讃えました。国内でもリモートで働き学ぶ若者は孤立せず, 隣人と挨拶を交わし, 困りごとを助けていました。小さな, しかし数多くの連帯の輪が地域に生れました。リモートながら人々の輪はさらに広がり, 自宅で国際会議に参加する人が増えました。友人が暮らす町並みは遠くても声と映像は掌の中, 近さが感じられました。

景観は暮らしと営みの顕れです。身近な景観を守ることで安心が感じられます。出かけられないからかえって連帯感が高まり、隣人を身近に感じました。そんな思いで活動された方々を景観づくり部門では表彰します。

コロナの2年間をへて、皆さんの活動は進化し、京都の景観を一層輝かせます。困難な状況は続きますが、世界の人々は一体感を強め、よりよい未来を模索しています。審査員を代表し、ご応募いただいた皆さんに敬意を表すとともに、心からご健勝をお祈りします。

京都景観賞景観づくり活動部門について

目的

「景観」とは、活き活きとした人々の暮らしや営みが現れたものであり、見た目だけにとどまるものではありません。地域の歴史や文化を大切にする取組や、それぞれの興味関心や共感に基づいて集まり活動する人々の取組が魅力的な景観に結びついています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、なお一層、コミュニティやまちづくりの意味などが問い直されています。今年度の景観賞では、既存のまちづくり活動だけでなく、構想(アイデア)も含めて広く募集し、これからのまちづくりについて考えます。

募集の対象

京都市内を主たる活動の場とする景観づくり活動

※今年度は構想(アイデア)での応募も可能です。※過去の取組で応募をする場合は5年以内を目安とします。

<募集時にお示しした「景観づくり活動」の事例>

- ・地域の魅力を見つけ、共有し、守り育てる取組
- ・市民団体や企業等が行っているまちや自然の保全・整備
- ・多様な主体が交流、協働するための場所づくり、空間づくり
- ・モノづくりやイベントづくりを通したコミュニティづくり
- ・地域の魅力を発展させるための情報発信や情報交換の仕組みづくり
- ・新しいまちづくりのための意思決定やワークショップの仕組みづくり

募集期間

応募総数

令和2年9月10日(木)~令和2年11月10日(火)

37件

選考経過

京都景観賞審査委員会において、1次選考(書類選考)及び2次選考(プレゼンテーション・最終選考)により選考を行いました。

- ・1 次選考では、議論の結果、以下の4点を評価項目とすることとし、市長賞及び優秀賞を選考する 2次選考に お越しいただく20件を選定しました。
- ① 活動の視点がユニークであること
- ② 地域の特性に合っていること
- ③ なぜその活動をするのかという問いが深く存在すること
- ④ どうやって活動を継続/実践するのかの具現性にすぐれていること、広がりを持つこと
- ⑤ 具体的な成果があること/期待できること
- ・2次選考では、20件のプレゼンテーションをお聴きした後、改めて4点の評価項目で審査委員会での議論の結果、市長賞1件、優秀賞9件、審査員奨励賞7件を選定しました。
- また、受賞団体のみならず、ご応募頂きました団体に関しても、デジタルパンフレットに掲載しています。

表彰件数

市長賞1件優秀賞9件審査員奨励賞7件

京都景観賞審査委員会

<第1回審査委員会>令和2年12月9日(書類選考)

<第2回審査委員会>令和3年10月27日(オンラインプレゼンテーション・最終選考)

<京都景観賞審査委員会>

宗田 好史 委員長 京都府立大学教授

乾 久美子 委員 横浜国立大学大学院Y-GSA教授,

乾久美子建築設計事務所主宰

梅林 秀行 委員 京都高低差崖会崖長

谷川 陸 委員 市民公募委員

谷口 忠大 委員 立命館大学情報理工学部教授

水出 喜穂 委員 市民公募委員

行元 沙弥 委員 NPO法人グローカル人材開発センター代表理事



オンラインプレゼンテーション









とまり木休憩所・おでかけベンチ協働プロジェクト実行委員会

活動テーマ

高齢者の徒歩での外出支援のためのベンチ製作と私有地への設置

【活動概要】

伏見区北部の深草・藤森・藤城地域で、地域のみなさんの協力を得て、高齢者が駅や商店街まで行く道すがらひとやすみできるベンチをつくり、住宅や店舗、各種福祉事業所や医院などの私有地へ設置する活動を行っている。まちにあるベンチは目的地となる公園や公共施設、商業施設内に置かれていることがほとんどで、通りがかりに地域の人が座ってよいベンチが、特に住宅地では置いていない。このため特に、駅や商店街などの目的地までの歩き継ぎのために休憩できるベンチを設置して、高齢者の徒歩での自由な外出を支援することを活動の大きな目的としている。高齢者が道路にへたり込んで座っていたり、塀やガードレールに寄りかかって休んでいるような光景をなくし、さらには、ベンチの周りで楽しげな会話がいっとき生じるような景観をつくりだすことも目指している。地域の各種団体の有志や高齢者サロン関係者、大学研究室、商店街関係者、竹林再生・保全活動をするNPO、地域包括支援センターの協働で、ベンチの製作や設置場所の開拓・設置交渉をおこなっている。ベンチの製作やメンテナンスにあたるメンバーは高齢者から小学生までと広く、参加することそのものを楽しめるような、地域の持続的な取組となることを目指している。

選評

「高齢者がへたり込んでいたりせず、ベンチの周りで楽しげな会話が生まれているような景観」という視点は、ついハードそのものばかりに目がいって見落とされがちな景観の要素を捉えており、今回の景観賞(景観づくり活動部門)の趣旨である「営みの現れ」としての景観を体現している。「高齢者は長距離を歩くことが困難で、主体的に外出できない」ということは言われれば納得するが、なかなか高齢者と関わりのない現役世代が気づくことは難しい。ていねいな調査から課題設定、解決のアプローチや、多様な主体の巻き込み方などはひとつの模範となる。少子高齢化を踏まえると、こうした活動の普遍性は高い一方で「その場所と結びついた地域固有の景観」としての側面が若干弱いのが気に掛かるが、今後の展開に期待したい。

ご紹介

- ① 京都市伏見区深草支所製作youtube 🗇
- 深草・竹やすらぎの会 とまり木休憩所実行委員会として(各団体個別名で紹介されています)
- ② 伏見区区民活動支援事業事例集, p.6(とまり木休憩所が紹介されています) ___
- ③ 深草・南部地域包括支援センターの新聞、p.3(とまり木休憩所が紹介されています) 🗇







優秀賞

団体名 敬称略・五十音順 活動テーマ

株式会社 八清 大型京町家の利活用提案と賃貸斡旋の取り組み

京の三条まちづくり協議会 三条通まち・みちづくりプロジェクト~「通り」から考えるまちづくり~

七條大橋をキレイにする会 七条大橋ライトアップ

Norang Narang アタラシイカワラ (京都駅東部・東南部エリア=崇仁~東九条に,

人と人・人と自然が創造的に交わる新しい「河原」をつくる)

伏見楽舎 自然と文化の宝庫! 伏見のヨシ原を次世代へつなごう!

明倫まちづくり委員会 祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち, 商いと暮らしが響き合うまち 明倫

有限会社 鈴木モータース 地域のおしごと博物館 京都 未来の屋号創りプロジェクト

淀さくらを育てる会 **淀の新名所づくり~河津桜並木~**

六原まちづくり委員会 **住んでいてよかったまち、これからも住みつづけたいまち** ~住民主体の空き家・高齢者対策と防災まちづくり~

団体名

株式会社 八清

活動テーマ

大型京町家の利活用提案と賃貸斡旋の取り組み

【活動概要】

京町家は年々数を減らし続け、ここ数年の間にも貴重な町家が次々と取り壊されている。不動産会社として、使い手・住み手がない、維持修繕が困難、という理由から手放され解体される京町家を個人・法人の所有者から規模を問わず古い建物の処分や活用の相談を受けつけ、安直に解体するのではなく、できる限り既存の建物を尊重し、売却・賃貸斡旋・利活用により受け継いでいく方策の提案を行い成約に結び付けている。特に大型の町家は歴史的建築物に指定される要素を持ち合わせている場合も多いため、指定建造物になった場合の税制面のメリットや改修工事に対する助成や規制緩和などに関する専門知識を提供している。

選話

京町家が減少する理由のひとつとしてマッチングの問題が挙げられる。特に、大型の京町家では、そもそも利用可能な人が多くなく、全国に広いネットワークをもち、売り手からも買い手からも信頼される仲介者の存在が必要とされる。こうした仲介者が、京都の歴史や文化を尊重していくことが景観保全にとっては重要である。





ご紹介

八清Webサイト 🗇



京の三条まちづくり協議会

活動テーマ

三条通まち・みちづくりプロジェクト ~「通り」から考えるまちづくり~

【活動概要】

「豊かな歴史と伝統を有する三条通の建物や、まちなみ等の良好な景観・環境形成」、「政治・宗教に偏らない、地域産業や文化の向上」を目的とし、三条通に集積する近代建築を学び楽しむ「近代建築WEEK」など、さまざまな活動を活発に行っている。2019年度には無電柱化の早期着手道路(コロナ禍によって三年凍結)になったことから、無電柱化の施工後にどんな三条通にしたいのか、ということを議論するため2020年度に「三条通まち・みちづくりプロジェクト〜通りから考えるまちづくり」を実施。車中心から、人が憩える上質な空間づくりへとシフトするために専門家や研究者、三条の地元の関係者や企業も一緒になって議論を進めている。







=条诵富小路の現状

雷線・雷柱のない=条诵

コロナ禍以降、"密"を回避するために屋外の公共空間の使い方が世界的にも見直されている。例えばパリのシャンゼリゼ通りでも車線数を減らし、新たな歩行者と緑のためのエリアを追加する計画が進行している。日本においてもテイクアウトやテラス営業などのための道路占用許可基準の緩和措置がとられ、今後歩行者中心のまちづくりを三条通の取組がリードしていくことが期待される。

団体名

七條大橋をキレイにする会

活動テーマ

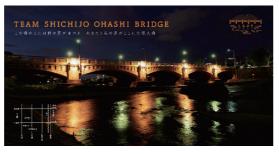
七条大橋ライトアップ

【活動概要】

七条通の鴨川に架る七条大橋は、鴨川に架かる橋で唯一100年を超えて現役の道路橋であり、明治期に着工された鉄筋コンクリートアーチ橋である。この景観的、構造的、文化的に価値のある橋が地域の誇りとなるよう、2015年7月から、毎月7日に橋周辺の清掃活動を継続している。2017年から2019年の夏には、地元住民や七条通周辺の事業者などと橋の魅力を伝えるライトアップイベントを3年連続で実施した。2019年には、国の登録有形文化財に登録されている。多くのボランティアの協力、寄付などが活動の原動力となり、この活動をきっかけとしたネットワークが広がっている。

選評

土木構造物とその周囲というひとつの景観を核にしてゴミ掃除やライトアップのイベントによる人と人とのつながりが形成されている。京都に数多くあるひとつひとつの愛される景観やモノそれぞれにこうしたコミュニティが存在すればもっと良い場所や景観が増えていくのではないだろうか。





ご紹介

活動紹介Facebookページ し 七條大橋をキレイにしよう!



団体名

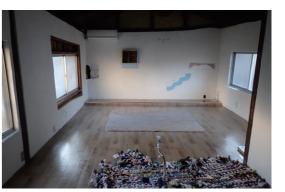
Norang Narang

活動テーマ

アタラシイカワラ (京都駅東部・東南部エリア=崇仁~東九条 に、人と人・人と自然が創造的に交わる新しい「河原」をつくる)

【活動概要】

ノランナランとは、韓国語で「あなたとわたし」の意味であり、東九条にあるカフェの2階をアートの視点からリノベーションしてつくった、作品展示や演奏会も可能なコミュニティ・スペースである。ここが若手芸術家たちと地域の人びとの交流の拠点となってさまざまなアイデアが生まれ、芸術(美術・演劇・音楽・パフォーマンス等)を学ぶ学生や若い芸術家が高瀬川や東九条地域のさまざまな場所・空間で表現活動を行っている。また、高瀬川の上に浮かぶ「空地」として仮設された「崇仁テラス」など、地域の人びとと協働して空き地の目立つ地域空間の新しい使い方(耕作や交流・表現の場として)を開拓し、アートや自然、若者を基軸とした活動を展開している。





選評

2023年秋に、京都市立芸術大学のJR京都駅東部エリアへの移転が予定され、これを核としたこの一帯がアートで若者を中心としたまちづくりが進むことが期待される。そのためにもっとも重要なのは、若手のアーティストや学生が表現を行い、また自らの作品を耕すことのできる空間が、こうした活動によって広がり、担保されていくことだろう。

団体名

伏見楽舎

活動テーマ

自然と文化の宝庫! 伏見のヨシ原を次世代へつなごう!

【活動概要】

ヨシは水辺で育つ植物であり、魚の産卵場所や鳥のねぐら、小動物の営巣地として、豊かな環境をつくる。宇治川左岸河川敷一帯にあるヨシ原は、約35~クタールあり、西日本最大のツバメのねぐらであると共に、ヨシズや三栖の炬火祭での炬火(たいまつ)、また文化財などの茅葺屋根の材料の生産地として知られる。ヨシは一年草であるが、護岸工事がされた宇治川では、自然に水の流れで淘汰されないため、ヨシ原の環境や景観を維持していくためには毎年人間が手を入れて刈り取ったヨシ焼きを行う必要がある。ヨシ焼き復活への働きかけに始まり、2019年からは、3月に行われるヨシ焼きの際、地域住民の方々を対象に「ヨシ焼き見学会」を開催するにまで至っている。





選評

自然風景というと、手つかずのままの、なにか原生的なものを想像しがちであるが、京都のそれは、人の手が入り、共生関係のなかで育まれてきたものも多い。このヨシ原もそのひとつの現れであり、その場所の生態系や暮らしや建物がつくりだす景観が本来、それぞれを別のものとして切り分けることのできない一体のものであるということを改めて考えさせられる。

明倫まちづくり委員会

活動テーマ

祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち, 商いと暮らしが響き合うまち 明倫

【活動概要】

この地域で育ち、生活している感覚を大事にしている地域住民、生活者が主体となって、明倫学区の魅力を次世代に引き継ぐため、地域のデザインルールや生活ルールをまとめた「明倫ルールブック」の作成や、年3回の「明倫ニュース」の発行、明倫学区を古くから知る人が歴史や伝統、習慣を伝える「夜話の座」などその活動は多岐にわたる。新しい住民の割合が大きくなるなか、何事も"お互いさん"の精神で接することができるように、2020年には音楽を中心とした催し「明倫版ラフォルジュルネ」を地域の町家やホテルと協力して実施するなど新しい展開を続け、"明倫まちなか"の楽しみを広めている。

選評

京都を代表する京町家などを有する祇園祭のまちである一方で、近年は、飲食店やホテルやゲストハウスが増加し、新旧入り混じるまちである。新しくできたホテルを会場にイベントを開催するなど、新しいものをたんに排除するのではなく、守るべきものを守りつつ互いに尊重し合う姿勢は今後の京都の景観づくりにとっても欠かせないものだろう。





ご紹介

① ホームページ ① ② 記事紹介 ①





団体名

有限会社 鈴木モータース

活動テーマ

地域のおしごと博物館 京都 未来の屋号創りプロジェクト

【活動概要】

未来の地域創生プロジェクトとして、半径500Mほどの距離にある地域の中小企業を参加店として集め、地域の小学生の職業体験を引き受けている。子どもたちに自分の住む街にある実際のお店や会社を知るしくみをつくり、地元で働く未来を考える機会を提供する。人々の絵顔と共に、参加店のあかしである軒先の「のれんフラッグ」のネットワークが広がることを目指す。地域の大学生と高校生も案内役で参加し、地域で育てて地域に生きる「地育地生」を提案する背景には、教育の在り方や働きがい作りと、女性の社会進出に対する課題意識が存在する。

選計

景観は建物の形や色のことだけではなく、人びとの営みの現れとして感じられるものであり、そうした営みの基盤としてコミュニティが欠かせない。子どもたちに、自分たちの住むまちを構成する仕事を体験してもらうということは、すぐに成果が表れるものではないが、景観やまちづくりにはこうした長期の目線が必要だろう。





ご紹介

① ホームページ □ ② YouTube □





団体名

淀さくらを育てる会

活動テーマ

淀の新名所づくり~河津桜並木~

【活動概要】

京阪電車淀駅から線路沿いの側道を徒歩8分のところにある淀水路沿いの淀緑地公園に、1kmにわたる河津桜(200本強)並木が見られる。河津桜は早咲きで2月下旬から濃く鮮やかなピンク色の花が咲き、開花期間が約1ヶ月あるため、長い間桜のある風景を楽しめる。2002年に伊豆の河津町から取り寄せて植樹を始め、2006年に「淀さくらを育てる会」を設立。自治会、老人会、淀観光協会等の協力を得て、京都市南部みどり管理事務所からアドバイスを受けながら毎年少しずつ河津桜を植え、現在は淀緑地公園だけでなく、淀城跡公園や地域の小学校や中学校などに合計約300本の桜の木が植わっている。





選評

名物行事「淀の河津桜まつり」など、いまや地域の風物詩となっている桜並木だが、20年前に会長自身が河津で気に入って購入した2本の河津桜が発端であるという。ちょっとしたきっかけがここまでダイナミックに景観を変えることがあることに驚かされた。とはいえそれも、誰もが愛する桜の訴求力だけでなく、多くの人を巻き込むていねいな取組の進め方と日々の管理のたまものだろう。

団体名

六原まちづくり委員会

活動テーマ

住んでいてよかったまち、これからも住みつづけたいまち ~住民主体の空き家・高齢者対策と防災まちづくり~

【活動概要】

「住んでいてよかったまち、これからも住みつづけたいまち」を指針として、「空き家対策部会」、「防災まちづくり部会」「民泊・ゲストハウス対策部会(2015~17年度)」、「高齢者対策部会(2018年度~)」と、時代に合わせて課題別部会を設け、まちの変化に対応している。まちの特徴である路地には、その由来をもとに愛称をつけ、地元清水焼の陶芸家の手による銘板を設けて地域の文脈を引き継いでいる。





選評

「地域でできることは地域で」「地域でできないことは外部の専門家とともに」という考え方をもとに、都度なにが課題でどうすれば解決できるかを判断し、堅実に行動に移していくことは簡単ではない。コロナ前には訪問者が増えたが住民とも調和した関係にあったという。変化に対応できるのは一時の盛り上がりではなくこうした取組なのだろう。

団体名 敬称略·五十音順

活動テーマ

NPO法人 京都発・竹・流域環境ネット 放置竹林問題の解消と竹林景観の保全活動

上賀茂自治連合会 歴史的風土特別保存地区「上賀茂本山」における『親林』活動

京都市地域景観まちづくりネットワーク 多様な地域景観に対応した新型コロナウイルス感染防止啓発ポスターの提案

景勝・小倉山を守る会 小倉山の森林景観再生プロジェクト

嵯峨地域農場づくり協議会 『持続可能な稲穂たなびく景観づくり』への取組み

白川あかり茶の湯の会、スペースデザインカレッジ京都校. 白川あかり茶の湯

京都橘大学まちづくり研究会・文化的空間デザイン研究会 ~茶の湯文化を活用し、学生と市民が交流しながら景観を再発見するプログラム~

町家の日普及実行委員会 3月8日は町家の日

団体名

NPO法人 京都発・竹・流域環境ネット

活動テーマ

放置竹林問題の解消と竹林景観の保全活動

【活動概要】

京都府下の里山を中心に、拡大する放置竹林問題の解消と竹 林景観の保全をめざし、京都市西京区の大原野を拠点に活動 を展開している。地域のボランティアや学生と協働して、文字通 り竹の葉っぱから地下茎(根ぶち)まで、すべての竹を資源とし て利活用できるような社会の実現をめざしている。

ご紹介

ホームページ





選評

竹を切り口にした資源循環型の地域を目指している。こうした持続可 能性への意識は、地域の住民や学生、 高齢者など、参加の枠組みを 広げることや、近隣のニュータウンも広域の地域としてとらえようとす る考え方にも現れており、今ここだけではない未来に向けた活動を大 切にしていることが伝わる。

団体名

上智茂自治連合会

活動テーマ

歴史的風土特別保存地区「上賀茂本山」における『親林』活動

【活動概要】

上賀茂本山の森林は、古くから上賀茂神社の聖域として崇め られてきた土地であると同時に、地域の人たちの薪や食料採 取など生活の場として管理されてきた。近年の生活様式の変 化に伴って荒れ始めた山を守るため、風致保安林の管理者で ある京都市と上賀茂自治連合会をはじめとする学区民が協働 して、ワークショップならびに保安林整備活動を行ってきた。 地域ふれあい事業の一環として2005年に「大田の小径」を 完成させ、子どもから高齢者まで安心して交流できる散策路 として定期的な維持管理を行っている。



選評

上賀茂本山は上賀茂神社の眺望の背景として一体的な景観を形成す るとともに、世界遺産のバッファゾーンとしてもその重要性は高い。一 方でそうした歴史的価値を単に教わるのではなく、子どもたちが課外 授業などを通して触れ、自然景観と人の営みが共生関係にあることを 体感することは将来の京都にとっても価値がある。

団体名

京都市地域景観まちづくりネットワーク

活動テーマ

多様な地域景観に対応した新型コロナウイルス感染 防止啓発ポスターの提案

【活動概要】

京都市の条例に基づく「地域景観づくり協議会」制度を活用 し、景観まちづくりを進めている地域同士が、地域間のネット ワークを活かし、それぞれの地域及び京都全体のまちづくりの 進展を目的に活動している。お互いの地域で起こった経験や情 報の共有が、制度利用の有無に関わらず、京都の景観まちづく りに役立てられている。今回の活動は、コロナ禍における行政 発信の新型コロナ感染防止啓発ポスターについて、それぞれ に特徴を持った地域景観にとってはふさわしくないデザインで あることに問題意識を抱いたことから始まった。見る人に「流 石は京都」と思われるような「歴史景観都市・京都」の景観にふ さわしい複数パターンのポスターをデザイン・作成した。



規制をしている側の行政のつくるものが、もっとも ホームページ 🗇 詰めが甘いということは往々にして起こる。啓発 ポスターひとつとっても, どうしてそうしたデザイ ンになったのかを私たちは特に気にも留めず見過 ごしてしまいがちであるが、そこに一石を投じられ るのはまちに対する自負心の強い京都ならではの 感性である。こうした意識を誰もが持つことがで きれば良い方向に景観も変化していくだろう。



団体名

景勝・小倉山を守る会

活動テーマ

小倉山の森林景観再生プロジェクト

【活動概要】

小倉山では、寺院からの借景景観と生物多様性、そして斜面防 災としての機能を向上させる目的で、産官学民連携で森林再 牛への活動を2013年から取り組んでいる。保津川からのサ クラやモミジの四季の彩り、寺院からのアカマツの借景景観な どの外からの景観と、ハイキングコース沿いの内からの景観を 再生すべく、地元の団体・市民が核となって、山地の森林の除 伐, 下草刈り等の定期的な維持管理活動及び植樹活動を行っ ている。地元小学校と連携した森林環境教育や,季刊誌,ハン ドブック等の配布などの普及啓発活動も継続的に行っている。



選評

森林景観を外からみた景観と内からみた景観に分け、借景の背景とし てだけでなく、人びとがハイキングを楽しめるように工夫するなど、山 や森に触れ、自然との関わりをもつことに重点を置いている。担い手を 増やし、持続していくためにはこうした「楽しむ」姿勢が大切だと思う。

団体名

嵯峨地域農場づくり協議会

活動テーマ

『持続可能な稲穂たなびく景観づくり』への取組み

【活動概要】

嵯峨地域は「稲穂たなびく景観」として貴重な場所であり、水田や 竹林面積が広いこともあって、もともとは稲作やタケノコ経営が盛 んな場所だったが、農林業の縮小に伴い、放棄耕作地等が増えて いるのが現状。水田を地域の価値ある資源(稲穂景観)として捉え 直し、米作り農家を増やし、「嵯峨地域の景観」を守るため、環境や 健康にも優しく、魅力ある米をつくることによりブランディング化 を図りながら、若手就農家を増やすことを目指す。後背の竹林整 備から発生した竹チップや京都市動物園のゾウ糞を肥料として利 用するなど生物多様性にも配慮した景観整備に取り組んでいる。



選評

文化財保護法の定義によれば、文化的景観とは「地域における人びとの生活 又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又 は生業の理解のため欠くことのできないもの」とされるが、この「稲穂たなびく 景観」がまさにこれである。現代の生活や生物多様性といった視点から暮らし を再解釈することが失われつつある景観を守るすべではないだろうか。

白川あかり茶の湯の会、スペースデザインカレッジ京都校、 京都橘大学まちづくり研究会・文化的空間デザイン研究会

活動テーマ

白川あかり茶の湯~茶の湯文化を活用し、学生と市民 が交流しながら景観を再発見するプログラム~

【活動概要】

京都の景観を再発見するために、河川・道路・公園等の公共空地に茶 室や野点、その他インスタレーションやワークショップなど、茶の湯と 関連する文化プログラムを挿入することで、来訪者に新たな視点を 持ってその場を鑑賞してもらう試みで、2011年に京都大学の大学院 生有志が、粟田学区自治連合会が実施する白川子供夏祭り(川遊びに 子供を誘い地域愛を醸成するプログラム)で川床を用いた子供の遊び 場を作成したことに端を発する。担い手として大学茶道部の学生や建 築を学ぶ学生に協力を仰ぎ、場所から刺激を受けた建築学校の学生 による茶室の作成・設置や、まちづくりを学ぶ学生による調査や企画を 通して、場所の歴史的重層性や景観を再発見する取組を行ってきた。



選評

コロナ禍によって、人びとの生活は大きく変更を余儀なくされ、人と触 れ合うこと、あるいは"不要不急"とされる空間やアートが社会に対して どういった役割を持つのかが問い直されている。学生のうちから実際 に地域と触れ合い、考える機会となるのは学生のまち京都ならではの 景観づくりであり、今後ますます重要になってくるのではないだろうか。

団体名

町家の日普及実行委員会

活動テーマ

3月8日は町家の日

【活動概要】

3月8日を町家(March ヤ)の日として2017年からイベントを開 催している。3月8日を含めた1週間を「町家WEEK!」とし、京都 市内各所の京町家で事業・活動する人びとと協力して、お茶会、座 談会、展示会や音楽ライブ、マルシェやワークショップなどを行って いる。またInstagram を使った「#町家の日フォトコン」や、大型京 町家共通見学会・ツアー企画「住みたい町家を探しに行こう」等の 様々なイベントを開催。毎年20~30の京町家が参加する。京町 家で活動する人びと同士の繋がりだけでなく全国の町家の残る地 域で町家保全活動をしている関係者にも取組が広がっている。



数を減らしつつあるという京町家であるが、その ホームページ 一 分その価値を理解し共有する人たちがつながり を持ち、ひとつのコミュニティを形成して広がり を見せていくことができるというのは京都ならで はの強さではないだろうか。町家の雄として日本 の町家を引っ張っていっていただきたい。

ご紹介



受賞一覧

市長賞

とまり木休憩所・おでかけベンチ協働 プロジェクト実行委員会

高齢者の徒歩での外出支援のためのベンチ製作と私有地への設置

優秀賞

株式会社 八清 大型京町家の利活用提案と賃貸斡旋の取り組み

三条通まち・みちづくりプロジェクト~「通り」から考えるまちづくり~ 京の三条まちづくり協議会

七條大橋をキレイにする会 七条大橋ライトアップ

アタラシイカワラ (京都駅東部・東南部エリア=崇仁~東九条に, Norang Narang

人と人・人と自然が創造的に交わる新しい「河原」をつくる)

伏見楽舎 自然と文化の宝庫! 伏見のヨシ原を次世代へつなごう!

明倫まちづくり委員会 祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち、商いと暮らしが響き合うまち 明倫

地域のおしごと博物館 京都 未来の屋号創りプロジェクト 有限会社 鈴木モータース

淀の新名所づくり~河津桜並木~ 淀さくらを育てる会

住んでいてよかったまち、これからも住みつづけたいまち 六原まちづくり委員会

~住民主体の空き家・高齢者対策と防災まちづくり~

審查委員奨励賞

NPO法人 京都発・竹・流域環境ネット 放置竹林問題の解消と竹林景観の保全活動

上賀茂自治連合会 歴史的風土特別保存地区「上賀茂本山」における『親林』活動

京都市地域景観まちづくりネットワーク 多様な地域景観に対応した新型コロナウイルス感染防止啓発ポスターの提案

景勝・小倉山を守る会 小倉山の森林景観再生プロジェクト

嵯峨地域農場づくり協議会 『持続可能な稲穂たなびく景観づくり』への取組み

白川あかり茶の湯の会、スペースデザインカレッジ京都校、 白川あかり茶の湯

京都橘大学まちづくり研究会・文化的空間デザイン研究会 ~茶の湯文化を活用し、学生と市民が交流しながら景観を再発見するプログラム~

12

町家の日普及実行委員会 3月8日は町家の日



団体名 姉小路界隈まちづくり協議会

活動テーマ 姉小路界隈まちづくり貢献の四半世紀

【活動概要】姉小路通は、北は御池通、南は三条通、東は寺町通、西は烏丸通に囲まれたエリアで、「住民相互の決まり事を定め、地域秩序を自治的に運営してきた」という井山宅に現存していた町式目を現代に合わせて再構築し、暮らしとなりわいと文化が共存するまちづくりを進めている。1995年の当会設立以来、井山氏は様々な活動を発案し、積極的に参加された。①町式目の再構築、②ガス灯建立、③まちなみ環境整備事業による二度の外観大改修、④進出を続けるゲストハウスとの協定書締結作業、⑤まちなかを歩く日での大軸執筆⑥まちなみの緑化によるもてなし、⑦電線地中化室外機の敷地内受入意思表示等、常に先駆的な目に見えるまちづくり活動を実践された。当会の副会長であった井山氏の功績を思い起こし、謝意を表したい。

ご紹介 姉小路界隈を考える会 ホームページ 🗇

姉小路界隈まちづくり協議会 ホームページ

姉小路界隈建築協定 🗇

姉小路界わい地区地区計画 🗇

宿泊施設連携夏の柳池区民まつり ホームページ

井山吉良氏まちづくり貢献の四半世紀まちあるきマップ 🗇



団体名 右京天空マップを作る会

活動テーマ 右京区の遺跡や古墳、陵墓山頂からの風景を参詣ルートにして地域活性化する

【活動概要】令和元年に設立。右京区に群集する、全国でも珍しい巨石古墳や遺跡を巡る「観光コース」や、山上にある御陵からは金閣寺や大覚寺、世界遺産仁和寺を天空から臨む「天空コース」をつくり、ウォーキングツアーを実施している。また、右京区の魅力を再発見する取組として、『右京天空遺跡マップ』作成なども行っている。



団体名 乙訓地名詩編纂「チーム乙訓」

活動テーマ みんなで残そう乙訓の景観

【活動概要】地域が誇りとする自然や歴史的名勝の景観を守るための啓発活動や多世代協働の活動を行っている。景観写真・俳句を市民や小学生から募集して集めた「乙訓文雅」の発行や、「乙訓景観カード」の作成を行っている。2020年には地域活動団体と協働で、乙訓景観フォーラムを開催した。



団体名 祇園町南側地区協議会

活動テーマ 祇園町南側地区の景観保全

【活動概要】祇園町南側地区では町式目を定め歴史的景観の保全・修景を目指す。住民の人口減少及び高齢化が進む一方で、近年は訪問する人が増加した。安心・安全を確保するために防犯カメラや防災ベルやAEDを設置し、景観に配慮したデザインとしている。

ご紹介 ホームページ 🗇



団体名 京都伝統文化の森推進協議会

|活動テーマ| 京都伝統文化の森プロジェクト

【活動概要】東山は庭園の借景を形作るだけでなく、市街地からの景観の一部となっている。四季の 移ろいが感じられて美しいだけでなく、災害に強く、また林内散策などレクリエーション にも活用できる森にすることを目的とした植樹活動や、より多くの人が森に関心を持てる ようにオンラインを活用した魅力発信などを行っている。



団体名 京都の髄,伝統の息吹

活動テーマ "京都の髄, 伝統の息吹" が迎える街並みの創出 一古都, 今日都。京都一

【活動概要】京都の景観づくりの方法として、「規制・制限する」という視点から「京都が有する伝統的財産・価値を積極的に導入する」という視点に転換する。店舗等の建物ファサードデザイン・サイン等の設置物に京都の伝統技術を取り入れることで、新たな景観づくりを目指す。



団体名 京北・香りの里/六ヶ畔・花簾庭プロジェクト

活動テーマ 日本の原風景「SATOYAMA」に、新たな風景価値を創出する取り組み

【活動概要】右京区「京北」は、京都市内へ流れ込む清流・桂川の源流地にも近く、「日本の原風景」とも言うべき美しい里山風景が色濃く残る。地域住民の交流だけでなく、国内外から多くの人が訪れるコミュニティガーデンとして「バラの咲く風景」を整備し、春と秋のバラシーズンには公開している。「香り」をテーマとしたまちづくりとして、バラ愛好家や地元の有志など、多くのスタッフがこのバラ園を支えている。

ご紹介 ホームページ 🗇



団体名 けやき百選クラブ

活動テーマ 洛西けやき通りストリートファニチャーコンペ (with コロナではぐくむ友情)

【活動概要】洛西で最も美しい通りといわれる「洛西けやき通り」の魅力を発信し、市民の交流の場を設け、洛西ニュータウンを幸福感あふれるまちにすることを目的としている。 令和2年には、「with コロナではぐくむ友情」をテーマとしてストリートファニチャーコン ペを行い、紅葉のけやき並木のライトアップと、展示機能を持たせたLED 照明による「光のギャラリー」において、応募作品のスケッチや模型の展示を行った。

ご紹介 ホームページ □ Facebookページ □



団体名 笹屋町一丁目景観まちづくり協議会

|活動テーマ| 地域景観まちづくり計画書の策定を通じた、全会員参画による「町家」を中心に 職住近接のまち「西陣」らしいまちづくりの検討

【活動概要】笹屋町一丁目は、江戸時代後期からと伝わる「町家(ちょういえ)」を持ち、協議会は 22戸と極めて小規模な地縁法人町内会と町内の6事業所の皆さんで手を携えて活動している。町家を活用した地蔵盆をはじめ、"顔の見える関係性"を大切に育んできていることを誇りに思い、町外の専門家・学生の皆さんとも連携してルールづくりを行っている。



団体名 新大宮広場

|活動テーマ| 空き地から広場へ, みんながつくる新たな居場所

【活動概要】新大宮商店街と地域全体を活性化するコミュニティの新しい核となることを目指して、2018年に開設された。会員が日替わりで活用し、地域の子供たちに向けたワークショップ、子ども食堂、婚活パーティー、地域の若手飲食店主によるフードイベント等、多様な取組が展開されている。現在、会員は300組を超えて増加しており、コロナ後の更なるコミュニティ形成や界隈への新規出店事業者と連携を展望している。

14

ご紹介 ホームページ 🗇



団体名 特定非営利活動法人ひとともりデザイン研究所

活動テーマ 嵯峨野の森林景観再生と環境教育活動の実施

【活動概要】音戸山は嵯峨野に位置する独立峰で、薪炭林として利用されていた。人の手が入らなくなり放置されていた森林を地域の参加者と共に整備し、不要木の伐採等で生じた枝葉は、連携している京都市動物園に提供してゾウやキリンの餌となっている。地域のみんなで山を維持管理するしくみをつくる一貫として、音戸山内を周遊できる散策コースの道づくりや観察会のイベントも実施している。



団体名 みんなの想火 京都

活動テーマ 自分たちのまちは、自分たちで灯す~竹あかりを通じて京都を笑顔であるふれる街に~

【活動概要】2020年から、全国47都道府県で一斉に「竹あかり」を点灯するイベント「みんなの想火」を開催。「竹あかり」の作成工程は、竹を切り、穴をあけるシンプルなもので、地元の児童養護施設の子どもたちを招待するなどして開催した住民参加のワークショップを通じて作成している。放置竹林の循環を促し、持続可能な整備にも寄与しする。



団体名 21 くろやま塾

活動テーマ 花育て隊

【活動概要】京都市右京区の京北地域(山国、黒田地域)で1995年に発足した地域住民のコミュニティ。地域に根ざした伝統文化の体験や自然体験などの諸活動を通して子供たちの教育支援を行うとともに、塾員の生涯学習の充実を目的とし活動してきた。2020年に統廃合によって閉校した旧京都市立京北第二小学校の花壇の整備・再活用の取組を始め、この活動をきっかけに幅広い年代の地域住民が交流し、再び色鮮やかな花が校庭を彩り地域が一体となってかつてのにぎわいを取り戻すことを目指している。



団体名 紫野小学校区イベント実行委員会

活動テーマ 紫野小フェス2020~Withコロナにおける新しい地域コミュニティの創造~

【活動概要】紫野小学校区(紫野学区、楽只学区)を中心に活動し、2020年度に、コロナ禍の状況を踏まえて感染予防対策を徹底した『紫野小フェス2020新ハロウィンフェスティバル』を開催。コロナ禍においても、番組小学校から続く長い歴史と伝統を引き継ぎつつ、学区にとらわれない広域的なまちづくりの視点に立って活動している。

ご紹介 京都・船岡山周辺地域情報サイト「フナッコ」 ホームページ 🗇



団体名 広く地域住民の声を聞き、仁和寺門前のより良いあり方を考える住民の集い 世界文化遺産仁和寺の環境を考える会

活動テーマ 1200年余りにわたって守られてきた仁和寺門前の景観・環境を見つめ直し、後世へと伝えるボランティア活動

【活動概要】 守るべきものは世界遺産や重要文化財などの寺院だけではなく、その周辺環境を含めた景観・環境であるとの視点に立ち、意見の集約ではなく、意見聴取を行う過程で地域住民同士の交流を活発化することを目的として、アンケートやヒアリングなどの活動を行っている。



団体名 立誠自治連合会立誠まちづくり委員会先斗町まちづくり協議会

活動テーマ Instagram先斗町チャンネルpontocho_channel powered by 先斗町まち づくり協議会 先斗町、町並みとまちの景色。日々小難しいことばっかりやってる先 斗町まちづくり協議会が、うだうだ言わず『素敵な先斗町』だけをお届けします。

【活動概要】京都の五花街のひとつとして商いを行ってきた先斗町は無電柱化等の景観まちづくりに取り組んできた。新型コロナウイルス感染症により経済活動がストップしお茶屋・飲食店が休業している間にも先斗町の魅力を発信していくためにInstagramを開設し、まちに関わる人が気楽に、美しくなった先斗町の良いところを共有している。



団体名 堀川みどりのまちづくり会

活動テーマ 「堀川みどりスタイル」緑豊かな歩いて楽しい堀川通を!

【活動概要】幅員50mと京都市で最も広い堀川通を,住人にとっても訪れる人にとっても「緑豊かな歩いて楽しい」空間とするため、京都市「街路樹サポーター制度」を利用した公共の花壇の管理や、広い歩道を利用した実証イベントの開催を行っている。協働での花壇の管理によって、実践的な拠点が生まれ、活動が「見える形」となり、新たな参加者も生まれている。



団体名 町家の住人応援実行委員会

活動テーマ 町家の住人応援プロジェクト

【活動概要】住民が今後10年、50年、100年住み続けることを意識し、固定化された完成形である町家ではない「京町家」のあり方を模索し、様々な時代の建物が混在してコラージュされた町こそ、住民や訪れる人びとが歩いて楽しく、住んでいても安心できる町という考えのもとまちづくりを展開することを提案する。

京都市 都市計画局 都市景観部 景観政策課 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る 上本能寺前町488番地 電話:075-222-3397